

TURP(経尿道的前立腺切除術)術後の尿勢を予測する手段としての、尿流動態検査の有用性に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2020年11月30日 ～ 2021年9月30日

〔研究課題〕

TURP(経尿道的前立腺切除術)術後の尿勢を予測する手段としての、尿流動態検査の有用性に関する検討

〔研究目的〕

今回の目的は、TURP 手術後の尿の勢いを事前に予測する手段として、尿流動態検査に注目し、この検査で得られたデータより、術後の尿の勢いに関連する因子を検討することです。

〔研究意義〕

TURP は、肥大した前立腺を切除し、排尿障害の改善を目的とした手術ですが、排尿は前立腺だけでなく、膀胱や尿道括約筋等が複雑に関与しています。このため、手術後も尿が思うようにならなかったり、逆に頻尿や尿失禁に悩む方もいます。

尿流動態検査は、排尿障害の病因や病態の診断や、膀胱の収縮機能の客観的評価を行う検査です。この検査を手術前に行い、得られたデータを用いることで、手術後の排尿機能がどうなるか、予測できるのではないかと考えています。

本研究は、TURP 術後の尿勢を予測する手段として、尿流動態検査の有用性を検討することを目的とします。

〔対象・研究方法〕

2015年1月1日から2020年3月31日の間に帝京大学ちば総合医療センターの泌尿器科において、TURPを施行した患者さんのうち、術前に尿流動態検査を実施した患者さんを対象とします。

研究のデザインは、後向き観察研究となります。

研究・調査項目；年齢、PSA(前立腺特異抗原)、超音波下前立腺体積、尿閉歴の有無、IPSS(国際前立腺症状スコア)、尿流動態検査所見、手術時の前立腺切除重量、手術後の最大尿流率、手術後の尿量および残尿量について、当院の電子カルテから情報を抽出します。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管

理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 納谷 幸男

帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・教授

研究分担者： 巢山 貴仁

帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科・助教

住所：〒299-0111 千葉県 市原市 姉崎 3426-3

TEL:0436-62-1211 (代表) [内線 5359]